

HDS027-13

会場:301A

時間:5月25日 11:45-12:00

## SAR 干渉画像で検出された地すべり域におけるボーリング・電気探査等の結果について

### Result of boring, electrical resistivity and some surveys in the landslide area detected by SAR interferometry

佐藤 浩<sup>1\*</sup>, 岡谷 隆基<sup>1</sup>, 中埜 貴元<sup>1</sup>, 小荒井 衛<sup>1</sup>, 岩橋 純子<sup>1</sup>, 宇根 寛<sup>2</sup>

Hiroshi, P. Sato<sup>1\*</sup>, Takaki Okatani<sup>1</sup>, Takayuki Nakano<sup>1</sup>, Mamoru Koarai<sup>1</sup>, Junko Iwahashi<sup>1</sup>, Hiroshi Une<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 国土地理院, <sup>2</sup> 国土交通大学校

<sup>1</sup>GSI of Japan, <sup>2</sup>College of MLIT

宇根ほか (2008) は合成開口レーダー干渉画像を使って, 平成 19 年能登半島地震 (M6.9) により東向きにわずかに移動した地すべりを明らかにした。この地すべりは, 受け盤の緩傾斜の丘陵性斜面に 1.5km × 700m の広さを持ち, 縁辺とその内部に亀裂と小規模な斜面崩壊が見られた。その地すべり域でボーリング調査を行うと共に, 露頭観察, 電気探査, 溪流の pH, 電気伝導度の計測を実施した。ボーリング調査と電気探査, pH の計測結果は明瞭なすべり面の存在を示さなかったが, 電気伝導度の計測結果は地すべり域の斜面下方端を示した。これらの結果は, 明瞭なすべり面を伴わない地すべり土塊群がわずかに変形して東向きに移動したことを示唆している。そして本研究の結果は, 研究対象地区で地震によって生じた地すべりの特徴を示唆したものとなった。

#### 引用文献

宇根 寛・佐藤 浩・矢来博司・飛田幹男 (2008): SAR 干渉画像を用いた能登半島地震及び中越沖地震に伴う地表変動の解析, 日本地すべり学会誌, Vol.45, pp.125-131.

キーワード: 地震, ボーリング, 電気探査, 電気伝導度, 合成開口レーダー

Keywords: earthquake, boring, electrical resistivity survey, electric conductivity, SAR